

UNESCO青年交流信託基金・ユーススタディツアー in ベトナム



日本ユネスコ協会連盟は、UNESCO 青年交流信託基金によるユーススタディツアーを8月3日～8月17日の15日間、ベトナムで実施し、全国のユネスコクラブ・協会から推薦を受けた14名の高校生・大学生が参加しました。8月4日、ハノイからベトナムユネスコクラブ連盟の職員と大学で日本語を学ぶ学生10名が合流し、総勢32名でライチャウ省に向かいました。ライチャウ省は日本ユネスコ協会連盟が2000年から2005年まで世界寺子屋運動による支援を行った場所であり、ベトナムを構成する54の民族のうち20の民族が暮らす場所です。

ライチャウ省の寺子屋では、中学校に行けなかった青年を対象に行われている物理の授業と農業訓練の授業を見学。参加者は、農業訓練の受講者にインタビューを試みるなど積極的に寺子屋の現状を学びました。

また、ライチャウ省少数民族の成人式や結婚式に同席したほか、日本の伝統文化や日常生活、料理などを紹介する交流プログラムも行いました。参加者からは、「本でその国のことを勉強しても異文化を知っていることにはならない。現地の人と触れ合って初めて分かることがたくさんある」「日本のことをきちんと説明できなくて後悔した」といった感想も聞かれました。

さらに、日本の参加者、ハノイの学生、ライチャウ省の青年と合同で、「平和」に関するディスカッションを実施。日本の参加者の多くが「相互理解、信頼から平和は生まれる」と考えたのに対し、ベトナムの参加者には「生活するために最低限必要なお金、仕事が平和につながる」という意見が多く、それぞれの考える平和に対する認識の違いが浮き彫りになりました。しかし、中身の濃い議論を経て「異なる国に生まれ育った人たちと一緒に平和について考えていくことの難しさを知った。でも、できることから始めていきたい」と述べた参加者もいました。



ライチャウ省の寺子屋にて農業訓練の授業を見学



日本のお餅を紹介中



ディスカッション後の参加者

今後は、各個人が所属するユネスコ協会などで、当スタディツアーの報告会が開催される予定です。

今回のユーススタディツアーの報告書は、後日ホームページ上にUPいたします。

UNESCO 青年交流信託基金・ユーススタディツアーの詳細はこちら

<http://www.unesco.jp/contents/communication/studytour.html>